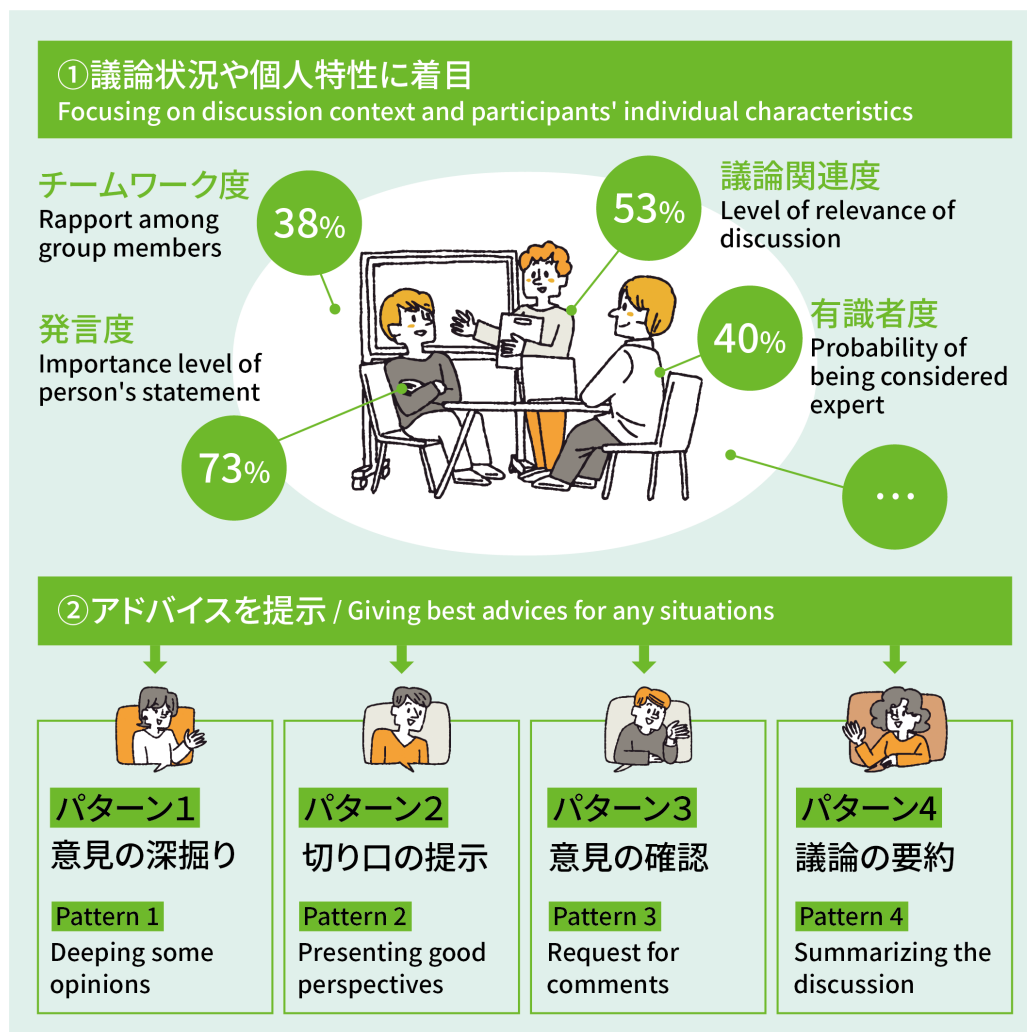


文脈や個人性を考慮したファシリテーション技術

ファシリテーションする側のスキルに依存せず、
どの議論にも一定品質でのファシリテーションを提供します

#顧客体験価値向上 #業務効率化



///技術課題

議論の状況や議論参加者の個人性を考慮してファシリテートの内容を動的に変化させる必要がありますが、考慮しきれていません。

///研究目標

議論の状況や参加者の個人性を考慮して会議進行を効率化し、全国の15%以上の教育機関へ継続反復的に導入します。

---要素技術

- 大規模言語モデル LLM（NTT版大規模言語モデル tsuzumi など）を活用
- 議論状況や個人特性の観点を考慮した独自の議論進行最適化アルゴリズム

---適用ビジネス

教育分野に置いて、グループディスカッションを実施する教育機関での授業、ゼミや研究室活動、地域活動に適用（2026年頃技術確立、2027年頃サービス展開）[市場規模80億円]

---市中技術差異点

議論への参加度や参加者のチームワーク度などに着目。それらの指標の組み合わせや閾値との比較によってチームの状態を定量的に算出。この結果によってファシリテート内容を判断することで、会議進行の効率化、かつ自動化を実現。